

『何の花？』

人はいさ 心も知らず ふるさとは

花ぞ昔の 香ににほひける

紀 貫之

[現代訳]

あなたはどうでしょうか。他の人の心はよく分かりませんが、昔なじみのこの里の梅の花は、昔のままの香りを匂わせていることですよ。

作者は、「土佐日記」の著者でもある紀貫之です。

この歌に出てくる花は何でしょうか。

この歌の詞書（ことばがき：和歌の前に歌の題や歌を詠んだ事情などを述べた短い説明文）によると、『初瀬の長谷（はせ）寺へお参りに行くたびに泊まっていた宿を長い間泊まらないで久しぶりに訪れたら、その宿の主人が「このように宿はありますよ。（あなたは心変わりされて、ずいぶんおいでになられなかったですね。）」と（皮肉を）言ったので、そこに咲いていた梅の枝を折って詠んだ歌』とあります。

正解は「梅」です。詞書を知らなくても、昔から生えている香りのする花を想像したら、「梅」にたどり着くかもしれません。

百人一首で「梅」がでてくる歌はこの歌だけです。

今も昔も変わらない梅の香り。二人の心も変わらず昔のままだったかもしれませんね。宿の主人は女性かな？

山陽小野田かるた協会 時吉 陽子